



月報 岡崎の教育

2月号

平成8年2月1日

発行/編集

岡崎市教育委員会

母の思いが綴られた手紙
見慣れた母の字、静まり返る

「お母さんの疲れをいやして
くれたのは、君の笑顔ともみじ
のようにかわいい手……。」

「病気は完全に治ったわけでは
ありませんが、君がお嫁さん
をもらうまでは生きていたい。」

心の震えがさざ波になる

舞台の上で、ライトを浴びて
母への思い、母の思いが
うねりをあげ、嵐となる

歌い終わった瞬間

時間が止まり

真っ白になる

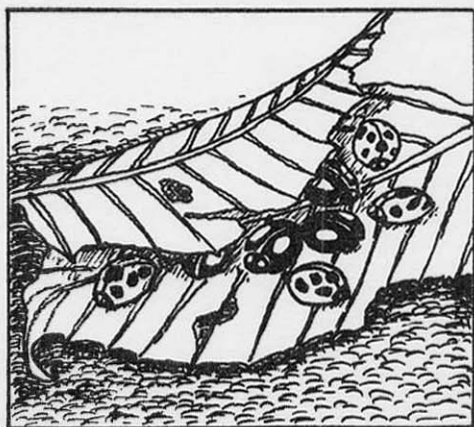
涙に心が洗われる

〈合唱コンクール「おかあさん」〉



(私は名スキーヤー — 岩津中)

日本における戦後の学校教員の養成は、幅広い視野と高度の専門的知識を備えた人材を教育界に送り出すことを目的として、教員養成系大学をはじめ一般大学においても行われてきました。日本の大学の約八割で教員養成が行われ、平成六年には約十二万八千人が教員免許状を取得しています。しかし、そのうち教員に



採用されたのはわずかに約二万二千人にすぎません。昭和六十年前後に教員就職率はピークに達したが、その後は急激に減少しました。これは少子化によってもたらされたものです。今後しばらくはこの傾向が続くものとみられています。これは日本の教育界にとって重大な問題です。つまり、教員の採用数が極端に減ると、

教員の年齢構成に偏りが生じ、子どもの教育や学校運営に支障をきたしかねないからです。

こういった状況の中で、教員養成に責任をもつ機関としての大学はどのように対応していったらよいかを考えなければなりません。教員養成の内容を更に充実させ、優れた教員の養成に努めるべきで、現在学校教

— 教育随想 —

教育大学は今



愛知教育大学学長
仲井 豊

育で特に問題になっている、いじめや不登校等の問題に対応でき、これからの社会の変化にも対応できる実践的な教育力を備えた教員の養成が必要となってきます。

また、学校の教員ばかりではなく、生涯学習にも通じるような、例えば社会教育主事、学芸員、司書、地域スポーツ指導員等の各種資格を取得

して活躍できる人材の育成にも努めてはなりません。少子化による教員需要の低迷に対応する措置として、教育大学では教員養成を目的としない新課程を昭和六十二年以降設置してきており、全国の教員養成課程の学生定員の約二割を新課程に振り替えました。愛知教育大学では全国に先がけて定員の約四割を新課程（総合科学課程）に移してきました。

これらの措置はもちろん卒業後の就職のことを考えてのことではあったのですが、これとあわせて、教育大学の中に目的を異にした二つの課程があつて、両課程が相互に協調して高め合い、これまでにない新しい内容の学部を創造するという意味もありました。今後この両課程の共生の課題は重要になってくるものと考えています。これからの複雑化する教育問題に対して、広い視野と高度な研究能力をもつ実践的な教育の研究者を育成するためには、大学院の整備、充実、拡充が必要となってきます。

今、教育大学は大きく揺れ動き、様々な課題をかかえ、検討が進められています。

(なかい ゆたか)

小中学生の体力・運動能力の向上を目指して

保健体育科指導員

栗田 錦治

昨年十月に、文部省が平成六年度の体力・運動能力テスト結果をまとめ発表した。小中学生の体力・運動能力が依然として、低下の一途をたどっているとの報告があつた。

本市においても同様に、小中学生の体力・運動能力の実態は、ほとんどの学年で年々低下傾向にある。

また、小中学生の日常生活では、学校以外で運動を行うための時間や場所、仲間等を確保することが、非常に難しくなつてきている。

こうした状況の中で、小中学生の体力・運動能力の向上を図ることは大変難しい問題である。そして、現段階では、このことは学校体育に課せられた重要な課題でもある。

このような観点に立って、各学校で様々な取り組みがなされている。体育が好きな子供を育てる授業づく



ふるさとシリーズ

この人に聞く



滝山寺鬼祭り保存会会長

中根 武夫 氏

火祭りの前に行われる「田遊祭」で「小局」を演じる中根さんを仁王門近くのご自宅に訪ねた。

「私が鬼祭りにかかわるようになってのは三十歳の時からです。父が病気でできなくて代わりに出たのが最初でした。今年で四十二年目になります。」

滝山寺の鬼祭りは昭和二十九年三月に愛知県の無形民俗文化財第一号に指定された。

田遊祭は小局と福太郎を中心とする十二人衆による舞が奉納される。これは、天下太平と五穀豊穡を祈願

するもので、女役の小局と男役の福太郎が米作りの様子を舞っていく。

「準備は金曜日から行います。ですから、役は会社勤めの人にいやがられます。もともと小局も福太郎も決まった家で代々伝えられていました。しかし、今は勤めのある人がほとんどですから、そういうわけにもいかず、福太郎役も替わってしまいました。私が父から継いだときはそうでもなく、父の後継ぎを自分がやるのは当たり前だと思っていたのですが……」

中根さんの家では小局を代々伝えている。中根さんの知る限りでも百人以上になるそうだ。こうして伝えられる田遊祭を中根さんはとても大切にしてみえる。

「台詞は鎌倉時代から伝わるもので、今では意味の分からない部分もあり、最初は覚えるのに苦労しました。そこで、自分で台詞を書いて本を作りました。きちんと書いておかないと伝えるうちに違ってしまふこともありますから。」

台詞だけでなく細かい所作も決まっているという。伝統を確実に受け継ぎ、次代へ引き継いでいくことの難しさをお話の端々に感じた。

話しながら見せてくださったアル

バムには、田遊祭にかかわる多くの写真が載せられていた。舞の細かい所作や道具の作り方などが、記録写真として残されている。いずれこの記録を本にしてまとめたい。

「鬼祭りは観光として知られていますが、わたしたちは人に見せるためだけにこの祭りを行っているのではありません。天下太平や五穀豊穡という、私たちの願いを滝山寺のご本尊へ祈願するためであることを決して忘れてはいけないのです。」

懸命に伝える中根さんの思いの強さを感じた。

氏名 なかね たけお
生年月日 大正十三年五月六日
住所 滝山寺字人ノ谷五番地



りや、業前・業間の時間を利用した運動実践、さらには特別活動やゆりの時間で行う各種の運動集会・校内大会等がこれにあてはまる。

しかし、小中学生の体力・運動能力の実態は、依然として前述のように、深刻な様相を呈している。これらのことから、子供の実態を踏まえた、より意図的で計画的な実践を行っていくことが必要である。

市内のある小学校では、筋力・調整力の向上を目指し、縄跳びや鉄棒を取り入れた実践を報告している。これは、授業や定期的な運動集会で子供の意欲化を図り、さらに段階をおって課題に挑戦できるカードを活用した実践である。この実践により子供たちは、放課等を利用して長期間にわたり、自主的に縄跳びや鉄棒に取り組み、ねらいを達成していったというものである。

このように、体力・運動能力の向上を目指した、意図的で計画的な実践を、学級や学年、さらには全校で進めていくことが重要である。

【推薦する専門書】

「体育の授業を創る」大修館書店
「関心・意欲・態度の評価技法」

明治図書



▲修学旅行で訪れたパルテノン神殿（ギリシャ）

▲テコンドーの型を使った運動会の応援（韓国）

世界に学ぶ

海外日本人学校の行事



毎年何人かが、海外日本人学校教師として派遣され、異国の地で活躍している。新学習指導要領では、国際社会に生きる日本人を育成する観点から、諸外国の生活や文化を理解し、尊重する態度の必要性を打ち出している。

日本人学校に学ぶ者のやさしい感性と温かい心情をもって、文化的伝統を異にする人々との触れ合いの中から、真の国際感覚を培ってほしいものである。

海外での教育体験をされた4名の先生方から、現地ならではの特質ある行事を紹介してもらった。



▲ゴーグルをつけての砂丘マラソン大会（カタール）

▲伝統的な子供の遊び、「ピニャータ割り」（メキシコ）
(おかしの入った人形)

●世界的文化遺産の探訪



ローマ日本人学校
(イタリア)
岡田 要
(六ツ美北部小)

イタリアには数多くの世界的文化遺産がある。そこで、ローマ日本人学校では、こうした文化遺産に触れる機会を多く持つようにしていた。写生会ではスペイン階段やコロッセオ、サンタンジェロ城へ出かけた。イタリアの学校にはこうした行事はあまり見られなく、現地の新聞記事にもなった。

また、校外学習ではオペラ座の舞台裏やバチカン美術館などを見学した。音楽家や芸術家を目指すイタリア在住の日本人を教師として採用しており、彼らの詳しい解説を聞きながら見学した。

ローマには、文化遺産が密集している。子供たちを世界レベルの文化に気軽に触れさせることができる。ただ、開校時であったので、行事の前例が全くなく、何をするにも手探り状態で、苦労も大きかった。

●小・中合同運動会



ソウル日本人学校
(韓国)
大山 敬章
(南中)

ここでの運動会は、小学部と中学部が合同で行っている。外国に住んでいると、かえって日本らしい行事

を親も期待している様子である。徒競走やリレーなどの競技もいる、紅白に分かれて得点を競い合うようにしている。

集団演技では、全員が法被を着た、日本のお祭りを題材にしたものと韓国の民族舞踊等が多い。

中学部では、韓国の武道・テコンドーの型をテーマとした演舞を発表した。また、現地の小学校を招待し、民族舞踊の発表も毎年行ってもらっている。

私自身が、体育教師ということもあって、運動会の指導には、力を入れた。特に、テコンドーを取り入れるために、町の道場に通い、初段を取得したことが今となっては宝となっている。

●世界唯一の国際学校



メキシコ日本人学校
(メキシコ)
金指 由香里
(城南小)

日本メキシコ学院(リセオ)は日本とメキシコの友好と繁栄のために設立され、日本人とメキシコ人が共に学ぶ世界唯一の国際学校である。日本コースとメキシココースの行事の多くは、年間を通して両コース間で日常的に計画され、継続的に実践されていた。

例えば入学式・卒業式を初め、運動会・クリスマス会・新年交歓会・子供の日、母の日の交流などがあげられる。その他特異な学校行事とし

て、院内ホームステイと称し、それぞれのコースの子供の家庭に三日間ホームステイし合うことも実施し、好評であった。さらにアイムス交流と称して、長放課の時間が両コース一緒になるように設定し、授業を離れて自由な遊び交流を進めるなど、国際学校として、交流活動は大変盛んであった。

●砂丘マラソン大会



ドーハ日本人学校
(カタール)
山本 典弘
(北野小)

ドーハ日本人学校では、中東独特の気候や地形を利用した学習を取り入れている。例えば、夏には気温が連日四十度を越えるため、四月から十一月までの体育の授業は、水泳ばかりである。

学校行事では、砂漠という特異な地形を生かして砂丘マラソンが一月に開かれる。小学部一年生の八百メートルから中学部三年生の二キロメートルまで、距離を変えて同じ会場で行った。岩石の多い広大な砂漠地帯の中にある、小山のような砂丘を走るのである。さすがに子供たちの表情には苦しさが表れるが、日本では体験できないマラソンを楽しんだという声も多かった。

土の上とは勝手が違い、砂に足が食い込みながらも必死に走ることで、現地での体験を深めることができたようである。

私の教育体験

・岡田 学校開設時で、何もなかったところからの出発であった。しかも、思うように教材や教具等が手に入らなかった。そんな状況でも、そこに子供たちがいれば、何とか工夫して教えるのが教師としての使命である。そんな、教育の原点にも通じる思いを実感として味わうことができた。

・大山 日本という国を外から見ることができ、日本人としての誇りと節度を持った行動をしたいと考えられるようになった。

また、日本に在住の外国人に対して、日本の文化や習慣をぜひ知ってもらいたいと思う。

・金指 世界中でそれぞれの人が、みんな自分の人生を精一杯生きているということを身をもって知った。自分も大切にしながら、他を受け入れていく柔軟さが育ったかなと思う。

今、ブラジルと中国の子供の学級を持っていて、メキシコでの経験がなかったらノイローゼになっていたかもしれない。

・山本 学校運営全般にかかわり、教務として年間を通しての教育課程に携わった。加えて、各国の学校との交流でその国の教育事情に接したり、日本各地から派遣された先生方の考え方や指導の特徴を知ることでもできた。おかげで、現在、学校全体を見ながら子供たちの指導ができるようになったと感じている。



壁画完成

作手村立作手中学校

太田 正文

作手は、四季折々の嬬やか

な自然に恵まれた美しい村である。そのとば口

にある遊水池の擁壁に、高さ五メートル、全長

五十八メートルの大壁画ができた。

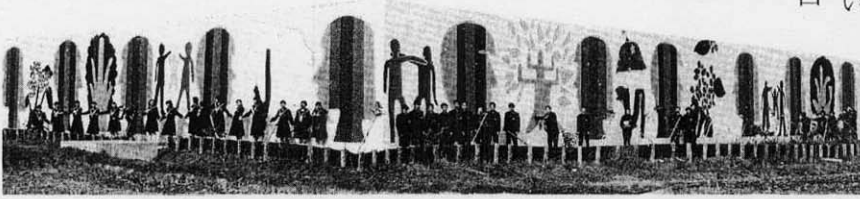
「先生、できたね。」

「これ、本当に私たちが描いたんだよね。」

ね。」

三年生の誰もが、視野に収まり切らぬほどの大きな作品を満足げに見上げています。私の隣で、中心になって活躍したM子が目を潤ませた。

この壁画は、地方振興事業の国庫補助を得て計画された。



「三年生として、私たちにできることがしたい。」

M子の言葉で、三年生が引き受けることになった。

現地に赴くと、擁壁のあまりの大きさに不安の声もあがった。確かに生徒数からすれば荷が重い。やがて、三年生の多くが長距離継走の練習に

取られ、構想はなかなか進まなくなった。

制作期限が迫ると、業者に委託しようか

という話も持ち上がった。M子にそのことを打ち明けると、三年生全員が職員室に押しかけてきた。

「私たちにやらせてください。」

先頭で訴えるのはM子である。彼女の熱意に動かされ、他の生徒も時間の許さか

ぎり協力すること

でまとまったのだ。大壁画の前に、三十九人の情熱的な姿

が思い出された。

が思い出された。

が思い出された。

師弟同行

部活指導を通して

城北中学校

中立 香

小学校生活最後の夏、バス

ケットボール大会の決勝戦でした。後半残り一分で一点差。

この時ほど死にも狂いになって奮い立ったことはありませんでした。タイムアウトになり、控え目な笑顔で私たち

を迎えてくださった先生の姿を、今でも鮮明に覚えていま

す。

今、私は女子テニス部を担当

していますが、試合展開が苦しくなると窮地に立たされた時など、脳裏に浮かぶのは

決まってあの時の状況です。そうすると、不思議と冷静になつて生徒一人一人の動きが明確に見えてくるのです。



「相手に負けないスピードとスタミナとスキルを身につけて絶対優勝するんだ」と小学生の君たちに、よくもあれだけ厳しい練習をさせたものだと反省をしながらも、懐かし

く思っているこのごろです。

私も退職して三年が過ぎようとしています。今は、テレビの画面を通してのスポーツ観戦が何よりの楽しみです。

昨年、暗いニュースが多かった中で、唯一夢と感動を与えてくれたのがスポーツだったような気がします。

古いかも知れませんが、私は勝敗は「時の運」ではなく、「努力の質」だと考えています。厳しさに耐え、苦しい練習に耐え抜いて大会に参加してこそ、勝つても負けても大きな感動が得られるものだと信じています。

あのころ、キャプテンとして厳しい練習に耐え抜いた君

です。今は、指導者として子供たちに、一つでも多くの夢

と感動を与えてやれるよう頑張つて下さい。

ご健闘を祈ります。

ご健闘を祈ります。

ご健闘を祈ります。

子供に夢と感動を

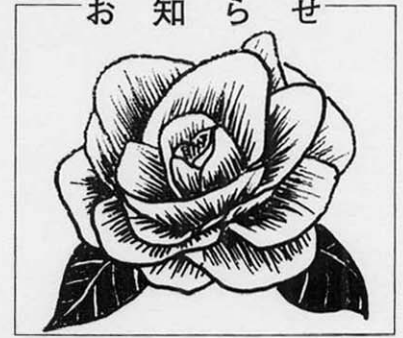
岩津市民センター

深川 隆夫

三島小学校で、君たちと共にバスケットや陸上に情熱を燃やしたことが、つい昨日のことのように思われます。でも、もう二十年が過ぎようとして

いますね。

お知らせ



◆CBC(こども音楽コンクール)

〈愛知県大会〉

最優秀賞

- 葵中学校 (吹奏楽)
- 北中学校 (合唱)
- 六ツ美北中学校 (合唱)
- 優秀賞
- 大樹寺小学校 (合唱)
- 美川中学校 (合唱)
- 常磐中学校 (合唱)
- 美川中学校 (重唱)
- 矢作中学校 (重唱)

〈中部決勝大会〉

金賞 六ツ美北中学校 (合唱)

(全国大会に出場)

◆第二十九回愛知県教育研究

論文

〈個人研究の部〉

- 優秀賞 美川中 都筑 祐一
- 佳作 岩津小 寄田加津子

〈共同研究の部〉

最優秀賞 竜海中理科部

◆第四十五回西三河中学校

長距離継走大会 (県大会出場)

男子の部

- 優勝 竜海中学校
- 準優勝 矢作北中学校
- 三位 常磐中学校
- 五位 矢作中学校
- 六位 竜南中学校
- 七位 六ツ美中学校
- 八位 六ツ美北中学校
- 九位 福岡中学校

女子の部

- 準優勝 竜海中学校
- 四位 矢作北中学校
- 六位 福岡中学校
- 七位 竜南中学校
- 八位 矢作中学校
- 十位 六ツ美北中学校

◆第四十四回愛知県中学校

長距離継走大会

男子の部

- 準優勝 竜海中学校
- 三位 矢作北中学校
- 五位 竜南中学校
- 六位 矢作中学校

女子の部

- 準優勝 竜海中学校
- 四位 矢作北中学校
- 六位 福岡中学校
- 七位 竜南中学校
- 八位 矢作中学校
- 十位 六ツ美北中学校

◆優良少年消防クラブ表彰

指導者表彰

- 表彰旗 本宿学区少年消防クラブ
- 竿頭綬 大門学区少年消防クラブ
- 指導者 常磐学区少年消防クラブ 浅井建一

◆全国中学生人権作文コンテ

スト愛知県大会

- 入選 矢作北中二年 永野 裕子
- 矢作北中三年 日下部清美

◆全国小学生人権書道コンテ

スト愛知県大会

- 入選 梅園小六年 泊 聡子

◆愛知県非行防止ポスター

優秀賞

竜南中二年 大森 章代

入選 城北中三年 杉浦 暢哉

- 藤川小 筧 美鈴
- 羽根小 都築 民子
- 羽根小 榎原 順子
- 上地小 富田 典子
- 上地小 竹平 真仁
- 竜海中 名倉 嘉章
- 矢作中 鈴木 則夫
- 南中 近藤 文彦

◆第三十六回学生けんび鏡

観察コンクール

- 中学校二部二等賞 竜海中三年 鈴木 悠夏

◆はがき作文コンクール

(郵政省)

- 郵政大臣賞 梅園小四年 林 慎一郎

◆詩 小学校の部佳作

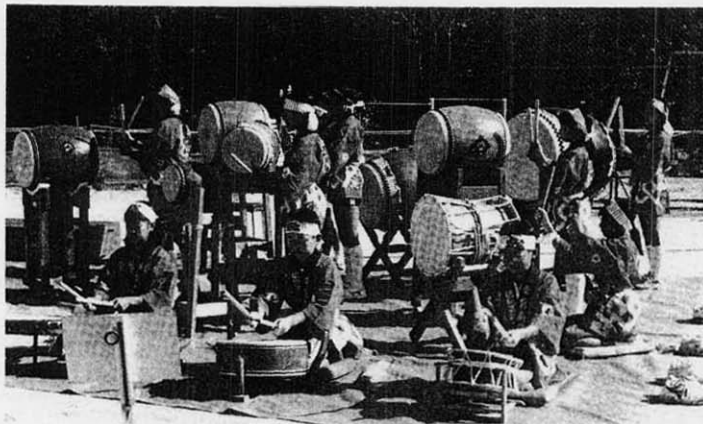
- 福岡小五年 高橋 清乃

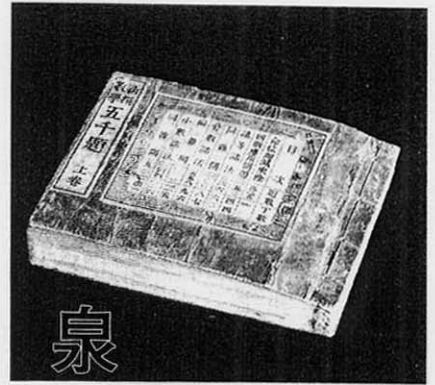
◆第二十三回愛知県自作OH

PITP作品入賞者

- 特選 矢南小 鷹見 京子

秋の親子教室。子供たちが自分の手で育てたジネンジョやシイタケ、米などの豊作を祈って披露した創作太鼓が、青空にこだまします。





根石小蔵

『新撰数学五千題』

中学校の制度が確立したのは、明治十九年の中学校令によつてであった。これによつて中学校は、高等中学校と尋常中学校の二段階制とされ、学校数も全国で高等中学校五

校と尋常中学校約五十校を設けるという方針が立てられた。したがつて、明治二十年には、学校数が以前の三分の一の四十八校、生徒数も全国で一人程度にしばらくられることになつた。

西南戦争の後、士族の子弟で中学校への遊学を志望する者が多くなつてきたのである

が、一方では、学校数は減らされた。当然入学が難しくなり、入試問題が生じてきたのである。そこで流行したのが、「何千題」形式の算術書である。本書は、明治二十七年に出版されている。目次を見ると、「命位加減乗除」から「小数雑問」に至るまで、ちようど五千問が掲載されている。現在でも、数々の入試問題集が出版されているが、これら「何千題」形式の本が、最初の数学の入試問題集として活用されていたのである。

・表紙写真
・表紙詩
・カット

岩津中
岩津中
新香山中

市川 充
永野 光雄
宇野 友啓

この本を

- | | |
|-----------------|----------|
| * 六男二組の約束 | 佐々 淳行 |
| TBSブリタニカ | ¥1600 |
| * 黒い虹 | あしなが育英会編 |
| 廣濟堂出版 | ¥1300 |
| * 母さんの卒業式 | 久保 充恵 |
| 風媒社 | ¥1300 |
| * 楽屋に裏話 人にエピソード | 渡壁 輝 |
| 日本実業出版社 | ¥1000 |

- | | |
|--------------|-------|
| * 周五郎に生き方を学ぶ | 木村久邇典 |
| 実業之日本 | ¥1600 |
- 周五郎の綽名「曲軒」は、尾崎士郎の命名だという。視点の違い、着想の差を感じさせる綽名である。

周五郎の作品は、大地に根づいた人間の生活を踏まえて描かれている。さまざまな境遇に置かれた人間が八方塞がりの絶望的な状況に追いつめられて、尚、苦悩の中に希望や生きる喜びを模索して生きようとする人像を浮き彫りにする。

「一冊万読」の読書姿勢を示唆する作品を通して作家の生き方を紹介している。

岡崎から日本人学校派遣教員として世界各地へ。多文化社会に生活し、相互に依存し合っているという認識が国際理解教育の根底にある。海外日本人学校に学ぶ子供たちの人間形成期の体験は、限りなくかけがえのないものであることを痛感した。

シ オ

ス ア

新しい自分の道を切り開くために、勉強に励む受験生。厳しい寒さにも負けずに切磋琢磨していることであろう。自身、参考書が真っ黒になるまで努力したことを思い出す。

精進を続ける受験生たちに心から声援を送りたい。

四季折々に移り変わる自然。日本はその恩恵を受け、それぞれの季節を楽しむことができる。しかしそれらの自然も、わずかな異変により、大災害をもたらす。雪のちらつくこの季節、交通網の分断に、現代社会のもろさを感じる。人間は、もっと自然に生きたい。

杉木立の中に幻想的に浮かび上がる鬼祭り。その非日常性が、観光客にとつての魅力であろう。そして、一方では生活と強く結び付いた鬼祭りがある。生活と結び付いているが故に、生活様式の変化が鬼祭りの姿を変えようとしている。